

Phase2：ニーズの抽出（障害当事者によるワークショップ）

1. 実施概要

日 時：2012年2月10日（金）13：00～17：00

場 所：国立障害者リハビリテーションセンター研究所・本館4階小会議室

参加者：小林玄宣（障害名：脊髄傷による両下肢全廃 損傷部位 T11、12）

菊地敏明（障害名：頸髄損傷による四肢体幹機能障害）

小宮山優（障害名：頸髄損傷による四肢体幹機能障害）

ファシリテーター；小島直子（バリアフリーコンサルタント）

事務局：硯川 潤（国立障害者リハビリテーションセンター研究所研究員）

浜田素子（国立障害者リハビリテーションセンター研究所補助員）

プログラム	
1. はじめに 13:00～13:30 （国リハ研究所：硯川潤）	あいさつ、排泄問題ワークショップ開催の経緯、 本日の進め方の説明など
2. Phase 1 の報告 13:30～13:40 （バリアフリーコンサルタント：小島直子）	排泄に関する技術開発の現況調査の報告
3. 当事者各人の自己紹介 13:40～14:05 （小林玄宣、菊地敏明、小宮山優、硯川潤、小島直子）	異なる立場の方々からそれぞれの日常生活等について の紹介
4. 当事者各人の排泄方法の紹介 14:05～14:40 （小林玄宣、菊地敏明、小宮山優、硯川潤、小島直子）	異なる立場の方々からそれぞれの排泄方法について の紹介
休 憩 14:40～15:00	
5.ブレインストーミング 15:00～16:55 （小林玄宣、菊地敏明、小宮山優、硯川潤、小島直子）	排泄での不便さ、経験、希望など生で自由な意見 を交し合う討論
6. まとめ 16:55～17:00	ブレインストーミングで見えてきたニーズのまとめ

2. ワークショップ要旨

（1）はじめに

主催者である国立リハ研究所・硯川潤より排泄問題ワークショップ開催の主旨、開催に至る経緯の報告を行った後、本日のPhase 2での位置づけの説明を行った。

（2）Phase 1 の報告

主催者でありバリアフリーコンサルタントである小島直子より、事前に実施した中山剛氏（国リハ研究所・障害工学研究部 室長）、及び田中哲也氏（ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社 セールスエンジニアリング部部长／福祉用具専門相談員）へのヒアリング内容の説明を行った。

《ヒアリング概要》

（資料1：Phase 1 の概要 参照）

（3）当事者各人の自己紹介

参加者及びファシリテーター、事務局より、自宅・仕事場・外出先での時間において、訪問介護及びヘルパーの利用時間、利用行為などそれぞれの日常生活の紹介を行った。

（資料2：メンバーシート参照）

（４）当事者各人の排泄方法の紹介

参加者及びファシリテーター、事務局より、排泄に関しての使用器具、使用方法などそれぞれの紹介を行った。

（５）本日の進め方の紹介（WSの進め方について）

本日のWSの進め方について、バリアフリーコンサルタントの小島より説明を行った。

- ・事前に参加者全ての方に生活の背景と排泄方法をお聞きし、データと状況の写真をPPTとしてまとめたものを提示しながら参加者全員の経緯を説明
- ⇒その上で本日のテーマに対し、当事者それぞれの持つ困難や希望などについて自由に討議を進めるブレインストーミングについての説明がなされた

（６）ブレインストーミング

排泄問題への経験による不満点、困っていること、解決に向けての希望などについて、様々な器具や排泄方法を行う当事者の視点からのブレインストーミングを行った。

【ブレストのポイント】

まず利用者としての意見、及び利用者仲間からの情報による現在困っていること・排泄問題に対しての不満点（▼）、それぞれの使用器具での希望する点（▲）、評価する点（●）などを発表した。そこから排泄問題を軽減するための方法・手段を見出し、さらに器具・用具の技術開発者への意向を繋げるべく意見を発表しあい、今後の検討を行った。



１）排泄問題に対しての不満点、希望する点、評価する点の検討

- ▼時間、手間、金銭的な負担がある。
- ▼自由に飲食が出来なくなった。
- ▼排泄に非常に時間がかかる。
- ▼日常生活内での排泄漏れも多く経験しており、常に不安を感じている。
- ▼排泄中は同じ姿勢を保つ必要があり、時間もかかるため低血圧になってしまうこともある。

《排泄方法における問題点》

A. 膀胱瘻

- ▼溜めた尿を捨てる手間が大変でありストレスがある。
- ▼カテーテル交換の際に医者の方の技術によっては痛みが伴うこともある。
- ▼病院での交換時、医師によって作業法が異なるため、ストレスが溜まったり血圧上昇を伴うことがある。
- ▲飲食が自由に気兼ねせずに行えるようになった。
- 頸髄損傷にとっては非常に有効である。
- 便に対しての不安感も軽減した。

A' . 自己導尿・バルーンカテーテル

- ▼溜めた尿を捨てる手間が大変でありストレスがある。
- ▲自然排尿でバルーンに尿を溜めることができるため、外出時にトイレを探す手間が省ける。そのおかげで外出での不安・不満が大幅に軽減した。

B. おむつ

- ▼尿漏れの心配がある。
- ▼排尿のあとにオムツ内のジェルが固まるが、そのジェルが冷えてくるので寒い。
- ▼排尿のあとにジェルが固まってくるので不快感が大きい。

▼匂いが非常に気になる。(⇒匂いを気にせず利用できるおむつがあるとよい)

▼替えのおむつを持参する必要がある、外出時の荷物が増える。(⇒身軽で出かけた)

C. ストーマ

▲使用に慣れれば非常に有効である。

▲よい製品が研究され出されてきており、バリエーションも多い。

▼排便障害等、各種障害が起こる可能性がある。

D. 洗腸

E. 盲腸ポート

2) 排泄問題解決方策への希望

- ・「いつでも」「どこでも」排便・排尿のできる環境をつくりたい。
- ・排便・排尿への匂いを心配せずに利用できる機器・用具があるとよい。
- ・排便・排尿への匂いを体内からカバーできるような、もしくはよい香りとなるような内服剤等があるとよい。
- ・用具の色や形など、視覚的に美しいデザインの機器・用具があるとよい。

3) 排泄問題へのそれぞれの持つ背景

- ・男女差
- ・個人差（習慣性によるもの、感覚によるものなど、個人差が大きい）
- ・自己管理の必要性
 - 飲食の問題 ⇒ 排泄を気にせず飲食できる環境がほしい
 - 時間の問題 ⇒ 移動時間（車、電車、飛行機）など長時間の場合の安心感が欲しい

4) 排泄問題への解決案

- ・匂いのない（少ない）おむつの開発 ⇒ 『スーパーおむつ』の開発
- ・匂いのない（少ない）ポータブルトイレの開発 ⇒ 『スーパーおまる』『車椅子おまる』の開発

(7) まとめ

ブレインストーミングで出された様々な意見を元に、今後の機器・用具開発者への希望や、今後ヒアリングしたい企業案などを検討しまとめとした。

1. 機器・用具開発者への希望

- ・失禁の心配なくいつでも活動できるような機器・用具があるとよい。
- ・いつでもどこでも排泄できるような機器・用具があるとよい。
- ・排便・尿の匂いで悩まされない強力な消臭効果のある機器・用具があるとよい。
- ・自分に合う機器・用具を選べるよう選択肢を増やしたい。

2. 機器・用具開発者のヒアリング候補の選定・検討

- ・消臭効果の高いフィルターなどの研究開発企業
- ・おむつ、車いす、便座等の開発企業

(資料3: WSでの検討内容(模造紙写真))

